

中部縦貫自動車道 大野油坂道路幅<い打ち

(大野市蕨生)



おおの 議会だより

主な内容

6月定例会の概要	2	ページ
一般質問	3~7	ページ
6月定例会審議結果	8	ページ
人事案件等	9	ページ
常任委員会審査	10	ページ
各委員会報告	11・12	ページ



心灯 (こころび)

(大野市南六呂師)

越前おおの元気創造事業の認定事業

発行：大野市議会
〒912-8666 福井県大野市天神町1-1
Tel 0779-66-1111 Fax 0779-65-3021
<http://www.city.ono.fukui.jp/>

編集：議会だより編集委員会

No.173 平成23年7月25日

6月 定例市議会の概要

第三七六回定例市議会は、六月六日から二十二日までの十七日間の会期で開催されました。
今定例会では、市長から提出された平成二十三年度一般会計補正予算案、条例の制定・改正、固定資産評価審査委員会の補欠委員の選任など、全十五議案のほか、議員提出の市会案一件、そして皆さまから提出された陳情三件などについて審議しました。

主 な 議 案

条 例

▼大野市暴力団排除条例

(議案第三十七号)

(主な内容)

この条例は、暴力団の排除に関する基本理念を定め、市および市民等の責務を明らかにし、暴力団の排除に関する施策等を定めることにより、社会一体となった暴力団排除活動を推進することを目的としています。

▼大野市過疎対策のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例

(議案第三十八号)

(主な内容)

この条例は、過疎地域自立促進特別措置法の規定によって、大野市内の過疎地域に指定された区域の製造事業、情

報通信技術利用事業および旅館業の用に供する設備を新設等したものかかる固定資産税の課税免除について定めているもので、課税免除の対象期間を平成二十五年三月三十一日まで二年間延長する改正がなされました。

予 算

▼二十三年度一般会計補正予算

(第一号)

(議案第三十六号)

補正の主な内容は、サン・スポーツランドのテニスコートやグラウンドの改修事業に九千三百五十万円、奥越ふれあい公園多目的グラウンド照明設備整備事業に四千八百三十三万円、県単土地改良事業(農業用排水路改修)に三千八百八十万円、越前大野駅前整備事業に一千万円が追加されたほか、JAが実施するネギ箱選別施設の整備に対する補助に千七百七十七万円、カントリーエレベーターへの

食味分析計の導入に対する補助に六百十八万八千円などが計上されました。

また東日本大震災被災地の人的支援経費八百八十四万五千円、庁舎建設基金への積立金に一億円、荒島岳登山道整備にかかる県への負担金に八百万円などが計上されました。これらの補正により、歳入・歳出とも今回四億千十一万五千円が追加され、一般会計予算の累計が百八十二億五千六百一十一万五千円となりました。

そ の 他

▼大野市防災行政無線(デジタル同報系)整備工事請負契約の締結について

(議案第三十九号)

大野市管内に防災行政無線(デジタル同報系)を整備するため、親局、簡易中継局、屋外拡声子局、戸別受信機などの設備整備工事を行うことになりました。

契約金額は、六億二千七百九十万円です。

▼開成中学校 特別教室管理棟・給食室棟・廊下棟耐震補強工事請負契約の締結について

(議案第四十号)

開成中学校の特別教室管理棟、給食室棟などの耐震補強工事を行うことになりました。契約金額は、二億八千四百四十四万五千円です。

▼化学消防ポンプ自動車売買契約の締結について

(議案第四十一号)

化学消防ポンプ自動車Ⅱ型や装備品などを購入することになりました。購入額は、四千四百三十一万円です。

▼(社会資本整備総合交付金)大野市保健医療福祉サービス拠点

施設整備工事(建築工事その1)請負契約の変更について

(議案第四十二号)

北側外トイレを倉庫にするための内装や基礎コンクリート量などを変更し、契約金額が四百四十八万四千五百五十円増額されました。

▼(社会資本整備総合交付金)大野市保健医療福祉サービス拠点施設整備工事(建築工事その2)請負契約の変更について

(議案第四十三号)

ロビーと保健センターの出入りを円滑にするため出入口や天上改修範囲を変更し、地下に埋もれていたアスファルト舗装の撤去・処分などに対応するため、契約金額が三百四十二万四千五十円増額されました。

審 議 日 程

- 6日 本会議 (会期の決定、議案上程・提案理由の説明、一部議案採決)
- 7日~12日 休 会
- 13日 本会議 (一般質問)
- 14日 本会議 (一般質問、陳情上程、各案件委員会付託)
- 15日 常任委員会 (産経建設)
- 16日 常任委員会 (民生環境)
- 17日 常任委員会 (総務文教)
- 18日・19日 休 会
- 20日 特別委員会 (中部縦貫自動車道・国道158号整備促進、庁舎等建設)
- 21日 休 会
- 22日 本会議 (各委員長報告・質疑・討論・採決、追加議案上程・採決、市会案上程・採決)

一般質問

今回は九議員が、提出された議案や市政全般について質問を行いました。

6月13日（月）				日程
新風おおの 梅林厚子 議員	双葉会 高岡和行 議員	日本共産党 ・大野市議団 浦井智治 議員	新風おおの 松田元榮 議員	質問者
①子どもを取り巻く状況について ②大野市の公共下水道について ③地下水保全について	①原子力発電について ②市防災と災害対策について ③大野城築城430年祭の経済効果について	①東日本大震災と原発事故について ②少子化対策について ③庁舎建設問題について	①新庁舎の建設整備について ②越前おおの総ブランド化について ③おおの市街地活性化のブランド推進について	質問事項
5頁	5頁	4頁	4頁	頁
6月14日（火）				日程
※ この表の質問事項には、議員が本会議で行った全ての質問項目を質問通告書で基に掲載しています。 なお、下段以降の各議員の質問・答弁の内容は、必ずしも全ての質問事項について掲載しているものではありません。	無党派 兼井大 議員	日本共産党 ・大野市議団 榮正夫 議員	新風おおの 石塚淳子 議員	質問者
	①大野市のデータベースマーケティングの必要性について ②地域防災計画について ③公営住宅政策について	①TPP（環太平洋連携協定）について ②介護保険法案（2012年度の制度改正）について ③越美北線の車両の増車について	①災害に強いまちづくりの推進について ②地域公共交通について ③越前おおのまるご道の駅構想について	質問事項
	7頁	7頁	6頁	頁
			新生おおの 山崎利昭 議員	質問者
			①防災と砂防関連について ②防災と中部縦貫自動車道・国道158号関連について ③防災訓練と住宅用火災警報器設置について	質問事項
			6頁	頁

地域防災計画について

質問 巨大地震に備えて、地震が発生した場合を想定した防災計画を策定しているか。

答弁 地域防災計画では、最大震度六強の地震を想定した被害予測を行っているが、大雪と地震の複合型災害の発生なども視野に入れ、大地震を踏まえて防災計画を見直す必要があると考えている。

農業問題について

質問 越前おおのブランド啓発促進事業の応募団体と事業所数を聞きたい。

答弁 三事業所から四件の応募があり、審査の結果、全ての事業について、交付決定をしたところであり、今後も追加募集を行い、越前おおのの魅力を全国に発信できるように努めたい。

住民主体のまちづくりについて

質問 原材料を支給し、住民自ら作業をする農道維持管理事業の利用集落数はないか。また、資材や重機の借り入れ費に



一般質問
川端 義秀 議員
(新生おおの)

についても考えられないか。
答弁 ここ三年間の原材料支給については、毎年二十から二十五集落で、年間総額二百万円余りの支援をしている。重機の借り入れ費用に対する補助については、ほかの自治体の支援状況を調査したい。

木造住宅の耐震改修について

質問 平成十七年度から住宅診断が行って始まった木造住宅耐震改修の現在までの診断件数と改修件数を聞きたい。

答弁 これまでの助成件数は、耐震診断が百八件、補強プランが四十九件、耐震改修が十件であり、肝心の耐震改修まで至っていないため、補助対象制度を拡充したところであり、今後は、これらの助成制度を広く周知したい。

大雪による被害について

質問 平成二十二年度の大雪による被害はどのようなものか。また、どれくらいあったか。それにより現在、市民に影響は出ていないか。

答弁 豪雪による被害は、人的被害が二十三人、住宅の一部破損が八十九件、空き家等の倒壊または破損が六十九件、農林業施設被害が三件。今後は、被害の発生を少なくしていくため、事前の現地確認をし、被害発生時には迅速な対応に努める。



一般質問
松田 元栄 議員
(新風おおの)

越前おおの総ブランド化について

○おおの農業のブランド戦略について

質問 消費者に選んでもらえる農産物の生産と、そのマーケティングが重要な時代に、農林楽舎が大野のブランドを拡充させていく機能であり、平成大野屋を拠点にそのネットワークから大野ブランドの促進を図るべき。安全・安心な本物の素材の提供と、その農産物加工品は市場ニーズを捉え、大野の産業の活性化につながり、本物の「食」の提供は大いに支持されるはず。大野市第五次総合計画実行の初年度のこの時期に、明確な戦略を示せ。

答弁 「越前おおの型 食・農業・農村ビジョン」において、有機農業などの環境調和型農業を推進し、消費者のニーズに応え、魅力ある「大野の食」を提供することを示し、「越前おおの型農業の持続的な発展」を図っていく。中京や京阪神などの大都市圏での観光商談会へ参加し、農林楽舎および平成大野屋の機能強化を図る。

質問 有機農家の面積が、大野市は全体の四、一割しかない。大野の強みを生かし、付加価値の高いお米生産を促進し、二十割の作付面積を目指し、生産者の所得安定と大野ブランドに貢献できる戦略としてはどうか。

答弁 安心・安全を一番に求める方が増加する中、有機米などの需要が増えるなど、その消費者ニーズに応えるべく有機農業の推進を図る。

質問 超売り手市場の大野の里芋の生産を昨年度の二倍を目標にし、組織仲間で有機栽培にチャレンジし、キロ四百円で販売できれば、里芋農業から新しい雇用を生み、元気な集落形成と大野ブランドに貢献できる。また、マーケティングは、JAテラル越前や農林楽舎の役割とし、大野市の戦略的支援とともに、有機面積が増えれば、ホタルも多くなるし、生物多様性にも貢献できるがいかがか。

答弁 生産者の所得向上に結びつくように里芋などの栽培面積の増加に対する支援や出荷に対する奨励補助により、さらに生産を増加させる。

また、有機農業の取り組みは、農業農村活性化支援モデル事業の活用により推進する。



東日本大震災と原発事故について



一般質問
浦井 智治 議員
(日本共産党・大野市議団)

質問 アメリカではスリーマイル事故の教訓から、十六キロ以内は緊急回避、三十二キロ以内は回避計画を立てること、八十キロ以内は水源や食料問題から防災計画を立てるとしている。しかし、日本においては、県にも市にも原発防災計画がない。大野市でも、地域防災計画に原発防災計画を立てるべき。

答弁 東日本大震災の教訓として、今後、国や県の防災計画が見直されると聞いている。本市の防災計画においても、関係機関の協力を得て、全庁体制による点検と見直しを行っていく。

質問 原発に依存するエネルギー政策から撤退し、自然エネルギーに転換すべき。

答弁 将来的には再生可能エネルギーへの転換は必要なことだと考えているが、直ちに転換することは不可能であり、議論の行方を注視していきたい。

質問 老朽化した敦賀原発や危険な「もんじゅ」は廃炉を求めるべき。安

全審査の見直しも求めるべき。

答弁 福島第1の事故原因を明らかにし、老朽化の影響も十分検証した上で、国の責任で運転再開の是非が判断される。安全審査についてはさまざまな機会を通じて国に要望する。

少子化対策について

質問 少子化ストップのため、出産祝い金や子ども医療費の窓口払いの廃止を実施すべき。

答弁 現在、出産祝い金支給は考えていないが、今年から市内で結婚式を行った場合、その費用の一部を助成する制度を始めた。子ども医療費の窓口払い廃止は国のペナルティがあるので今は考えていない。



庁舎建設問題について

質問 基本構想の住民説明会では「耐震補強で十分」「将来の財政負担が重すぎる」との意見があった。あらためて市民の意見を調査すべき。

答弁 現庁舎の耐震補強と改修では、満足度の高い庁舎にはなりにくいことから実施しなかった。計十回の説明会への参加人数は合計百四人と想定していた人数には達しなかったため、あらためて住民の意見を記入する用紙を配布して意見を聞いていく。



一般質問
高岡 和行 議員
(双葉会)

原子力発電について

質問 日本国政府は今後も原子力発電事業を推進していくようとしているが、市長はどのように考えるか。

答弁 原子力発電は日本の経済成長を支え、今、現在も多くの原子力発電所が大消費地に電力を供給し続けているが、これは立地市町村の長年にわたる国の原子力政策への協力の賜物であると理解している。については、国が一元的に責任を持って国際的にも信頼される原子力政策を推進することが重要であると考える。

質問 敦賀市にある日本原子力研究開発機構の高速増殖炉「もんじゅ」の炉内中継装置落下事故についての経過を聞いているのか。

答弁 過去に例を見ない事故であり、同装置の落下に関する原因分析をしっかり行い再発防止策が確実に行われるようにしてほしいと考えている。

市防災と災害対策について

質問 本市の「防災計画」「災害対策」はどのようになっているのか。

答弁 「大野市地域防災計画」を策定し、災害の予防や災害応急対策、災害の復旧に関する事項を定め防災体制の整備に努めている。「災害応急対策」として「一般災害応急対策計画」と「地震災害応急対策計画」の中で計画の点検、把握を行っている。

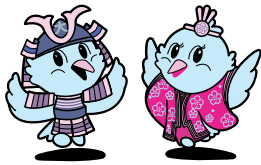
質問 災害時の食料・水・毛布等はどこに備蓄されており、どれほどの量か。

答弁 改築中の有終会館に備蓄しており、毛布は千二百五十枚、食料については、三千四百八十食、水については千二百リットルである。

大野城築城430年祭の経済効果について

質問 「越前大野城築城430年祭」の経済効果についてお尋ねしたい。

答弁 経済波及効果は約十八億円と算定され、最終需要増加額約十五億円に対し一・二倍の効果があつたと推定される。また、これに伴う理論上の雇用者誘発数は年間二百五十人程度と推計することができ。観光誘客の強化などさらなる観光戦略を講じていきたい。



一般質問
梅林 厚子 議員
(新風おおの)

子どもを取り巻く状況について

質問 学校教育の中で「認知症」の知識、理解等の学習が必要なのは。

答弁 道徳教育や施設訪問などで、取り組み、指導している。

質問 貧困世帯の半数超がひとり親家庭であるが、その現状と支援の取り組みは。

答弁 平成二十三年四月現在、母子家庭三百二十四世帯、父子家庭五十三世帯と年々増加。児童扶養手当や医療費助成事業、就学支度金のほか、所得制限のないものでは、全ての進学の子どもに体操服や図書券の記念品を贈呈、日常生活支援、相談員による相談対応、母子家庭の母親には就業支援など、ひとり親家庭の子どもたちが健やかに育つために必要な支援を今後とも継続していく。

質問 たとえ両親が個々に生活しているても、子どもを育てる義務は双方にある。養育費の取得者数と、その請求に対して行政の対応は。

答弁 ひとり親家庭三百七十七世帯中、養育費取得二十世帯。全体の八・六割。養育費の相談を受けた時には指導をしている。

大野市の公共下水道について

質問 越前市は大野市の現状と全く同じ、加入率が伸びない、莫大(ばくだい)な工事費が掛かる、人口減少、公共水系を守る等の理由により、下水道事業に対し大きな転換を図り、二百四十億円の財源の縮小をしたが、大野市も見直しが必要ではないか。

答弁 財政計画、整備計画を見直すという考えはない。加入率促進を考えている。

地下水保全について

質問 地下水保全対策に必要な財源の確保は。

答弁 市内外の企業、団体、個人からの地下水保全基金残高、三千五百万円を地下水保全に活用する。今後市民への負担・協力をお願いする前に、上水道の普及と加入促進を図ることが、行政の重要課題だと考えている。

質問 地下水保全管理計画の最終の地下水位の目標値は平成二十八年の真名川の水利権の見直しを含んだ値なのか。

答弁 今後目標値について、年度も含めて見直しして行きたい。



一般質問
山崎 利昭 議員
(新生おおの)

防災と砂防関連について

質問 日本は災害列島であるが、本市では地震や台風、大雨による災害対策をどのように行っているのか。

答弁 災害予防対策として、避難所や危険箇所を示したハザードマップの各家庭配布や総合防災訓練の実施、自主防災組織の結成促進、災害時の要援護者の避難支援プランの作成、防災無線の整備を行っている。砂防えん堤だけでなく、地域住民が協力し自らが里山の管理等に参加して総合的にソフト、ハードが一体となった里山砂防事業を展開していく。

防災と中部縦貫自動車道・国道158号関連について

質問 中部縦貫自動車道は、地域の活性化はもちろん、災害時に対処するためにも、真に必要な道路と考えるが、市としての考えと認識は。

答弁 災害時の緊急輸送や、救急医療活動の支援、広域的交流や地域連携の

強化、産業経済の活性化の促進、冬季における安全で安心な交通の確保を図る上で真に必要な道路であり、本市の最重要課題として取り組んでいる。今後も各協議会と連携し国および関係機関に働きかけていきたいと考える。

防災訓練と住宅用火災警報器設置について

質問 住宅用火災警報器の設置状況、防災訓練の実施状況は。また、冬季における防災訓練の必要性をどのように考えているか。

答弁 四月末現在の設置率は、県全体で約七十割、本市は六十二・四割である。火災警報器設置は早期発見により大事に至らずに済むと、効果が認められている。きめ細かい普及啓蒙（けいもう）活動を行い、全戸設置を目指し努力したい。防災訓練については、平成二十年から地震や風水害を想定し、住民参加型の総合防災訓練を実施している。冬季の訓練実施について、このたびの大震災にみられるような複合型災害を想定した訓練は、本市の防災体制を強化するためにも重要である。

今後、進めていく地域防災計画の見直しに併せ、危機管理体制を再点検するとともに、市民の防災意識の高揚を図りながらハードおよびソフト両面の防災都市作りを進めていきたい。



一般質問
石塚 淳子 議員
(新風おおの)

災害に強いまちづくりの推進について

質問 地震や洪水発生時、拠点避難所まで遠い地区、山沿いの地区の集会所は避難場所となるか。また、集会所に対しての耐震診断は。

答弁 各地区にある集会所については拠点避難所としては指定していない。各地区防災組織で住民の集まる場所や拠点避難所を確認して、避難計画を立ててほしい。各地区にある集会所の耐震診断は、建物の建築年月日を把握していないので、今後対処していきたい。

質問 子どもから高齢者まで全市挙げでの防災訓練が必要。各種団体の代表者と防災訓練計画を策定してはどうか。

答弁 いろいろな災害や発生時期を想定し、地域住民をはじめ、各関係機関と連携した図上訓練による災害シミュレーションで課題等を整理した上で、実施に向けて取り組む。

質問 自主防災組織について、高齢化により結成困難な地区はあるのか。ま

た、その対策は。

答弁 現在二十八行政区が未結成。少子高齢化や、地域コミュニティ内での青壮年層の不足により組織の形成が困難になっていることが原因の一つ。今後の対策として、地区の意見を聞き、近隣地区同士との連合体結成など、複数の行政区を結びつけた組織結成などを視野に入れて、取り組んでいく。

地域公共交通について

質問 市内循環バスの本格運用は可能か。また、いつ決定されるのか。

答弁 来年三月まで試験運行して、できれば四月から本格運行したい。九月末までの利用状況を見て、財政負担と交通不便者のための福祉の効果などを勘案しながら公共交通活性化協議会と協議して、決定していく。

越前おおのまわりの道の駅構想について

質問 道の駅は、大野の玄関口となり、市街地観光や大野の良さを体験できる施設などへ誘導する拠点施設となる。道の駅として登録申請する施設を造るのか。

答弁 来訪者を迎える施設として、越前おおの結ステーションの整備が進み、大和町市有地も整備することとなっていることから、新たな道の駅の整備を検討するには至っていない。



一般質問
榮 正夫 議員
 (日本共産党・大野市議団)

TPP (環太平洋連携協定) について

質問 TPPとは、太平洋を囲む国々が参加して貿易自由化を広げ経済連携を強めようという協定であり、現在九カ国で広域の協定を目指した交渉が行われている。

菅直人首相が昨春秋、TPP交渉参加を突然言い出して国民が初めて耳にした問題であり、国政の大問題になっている。市長をはじめ理事者は、この問題に対して曖昧模糊(もこ)な答弁だったが、議会が反対決議をし、三月十一日の東日本大震災が起きた今日でも、市長、理事者の答弁は、曖昧模糊(もこ)な姿勢を取るのか。

答弁 TPPについては「TPP参加の遅れは、産業会にとっては、国内産業の空洞化にならかねない」などのTPP参加推進の立場での意見や「農林

水産業の生産力・競争力が大きく低下し、明日への希望も見えないとき、TPP参加は納得できない」との賛否両論が、マスコミでも報道されている。市としては、越前おおの型農業を推進してきた。TPPに参加することは、これらの施策が無駄になり、TPP参加に伴う農業者の所得が確保されない限り参加すべきでないと考えて、今後も国の動向を注視したい。

昨年より一千元程度低い価格だが、地域経済への影響の試算はしていない。今後は試算をしたい。



越美北線の車両の増車について

質問 福井発十六時五十分九頭竜湖行の車両は一両運行で込み合い、乗客の皆様は、もう一両の増車を切実に望んでいる。大野市も形式的好いでなく、真剣な対応を。

答弁 お示しの資料は、JRのダイヤ表と思うが、金沢のJR西日本へダイヤ改正に伴って二両編成の要求に二度行っている。機会あるごとに今後もこの要望をして行きたいと思うが、議員各位も越美北線を利用する中で、不都合を感じての質問だと思うので、議会の側面的支援をお願いしたい。



一般質問
兼井 大 議員
 (無会派)

大野市のデータベースマーケティングの必要性について

質問 市外からの参加者が多い名水マラソンの申し込み書や、他のイベント・事業開催時に、例えば大野市産農産物などをプレゼントする抽選会等を行い、その申し込み用紙に「今後、大野市からお得な情報の発信を希望する・しない」のチェック項目を設け、個人情報収集し、データベース化してマーケティングに利用してはどうか。

答弁 今年の名水マラソン参加者は三千六百五十一人で、うち県外からは千九十五人である。参加者のデータは過去三分しか残されていないが、県外参加者全体の約二十五割が三回連続、約四十五割が二回連続で参加されていると聞く。このような方々の中には、市内の他のイベントへもご家族で継続して来訪されている方もいる。個人情報保護の観点も慎重に踏まえ、情報をデータベース化し、大野市のさまざまな

な情報を発信することは「越前おおの総ブランド化」の推進のための有効な手段であると考ええる。

地域防災計画について

質問 正確な防災・防犯に関する情報をいち早く市民へ知らせるために、メールを活用した取り組みが必要と考えるかがか。

答弁 県内では福井市、あわら市、勝山市、越前町等が実施している。震災発生後は通信回線の断線や混乱により機能しないという恐れはあるものの、台風や豪雪時などにおいては事前の情報発信が可能である。今回整備する同報系防災行政無線の放送内容をメールで配信することも有効であると考えているので、今後、十分研究したい。

公営住宅政策について

質問 市営住宅の募集へ応募される方で、入居できる方と入居できない方の間で不平等が生じ、公営住宅法の目的が達成できていないのではないかと。今後の取り組み方針について聞きたい。

答弁 住宅供給戸数が限られている以上ある程度はやむを得ないと考えているが、限られた住宅戸数をより多くの世帯が利用できる方策として、入居期間を限定する定期借家制度の導入等について、今後、検討していきたい。

平成23年6月第376回定例会 議案等の審議結果および各議員表決

議案番号・議案名等		議員名（議席番号順）	議決結果	山崎利昭	梅林厚子	永田正幸	松田元栄	前田政美	石塚淳子	宮澤秀樹	川端義秀	松原啓治	藤堂勝義	高岡和行	兼井大	島口敏榮	浦井智治	本田章	畑中章男	砂子三郎	榮正夫
				議決結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市 長 提 出 議 案	36	平成23年度大野市一般会計補正予算（第1号）案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	/	○	○	×
	37	大野市暴力団排除条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○
	38	大野市過疎対策のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○
	39	大野市防災行政無線（デジタル同報系）整備工事請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○
	40	開成中学校 特別教室管理棟・給食室棟・廊下棟耐震補強工事請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○
	41	化学消防ポンプ自動車売買契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○
	42	（社会資本整備総合交付金）大野市保健医療福祉サービス拠点施設整備工事（建築工事その1）請負契約の変更について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○
	43	（社会資本整備総合交付金）大野市保健医療福祉サービス拠点施設整備工事（建築工事その2）請負契約の変更について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○
	44	専決処分承認を求めることについて（平成22年度大野市一般会計補正予算（第7号））	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○
	45	専決処分承認を求めることについて（大野市国民健康保険条例の一部を改正する条例）	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	/	○	○
46	専決処分承認を求めることについて（大野市国民健康保険条例の一部を改正する条例）	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	
47	専決処分承認を求めることについて（大野市食育推進会議条例の一部を改正する条例）	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	
48	固定資産評価審査委員会の補欠の委員の選任について	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	
49	監査委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	
50	固定資産評価員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	
市 会 案	2	安心・安全な地域社会づくりと農業の発展に向けた意見書	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	
陳 情	1	安心・安全な地域社会づくりと農業の発展に向けた陳情書	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	
	2	原発事故を踏まえた安全対策等にかかる陳情書	趣旨採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	
	3	有害鳥獣等による農作物被害対策に関する陳情書	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	

（議決結果に賛成○、反対×。欠席、除斥等による不参加-。議長（本田 章氏）は採決に加わらないので「/」で表示）

●市議会を傍聴しませんか

会議は、どなたでも傍聴することができます。
傍聴を希望される方は、受け付けを済ませてから、傍聴席にお入りください。
次回の定例会は9月に予定されています。詳しい日程につきましては、8月中旬に協議されますので、9月号広報おおのご確認ください。



●会議録の公開

本会議の会議録は、大野市ホームページで公開します。また、各委員会の会議録は、情報公開制度によって、公開を求めることができます。ただし、会議録の調整に、一定期間を要します。

詳しくは、議会事務局へお問い合わせください。（0779-66-1111 内線253）

陳情

▼安心・安全な地域社会づくりと農業の発展に向けた陳情書

提出日 平成二十三年五月二十七日
提出者 テラル越前農業協同組合
代表理事組合長 西川文人
外一名

審議結果 採択

▼原発事故を踏まえた安全対策等にか
かる陳情書

提出日 平成二十三年五月二十七日
提出者 テラル越前農業協同組合
代表理事組合長 西川文人
外一名

審議結果 趣旨採択

▼有害鳥獣等による農作物被害対策に
関する陳情書

提出日 平成二十三年五月二十七日
提出者 福井県農政連大野支部
支部長 片山嘉男

審議結果 採択

人事案件

▼固定資産評価審査委員会の補欠の委員の選任について

(議案第四十八号)

固定資産評価審査委員に池端保氏(牛ヶ原)を選任したことを承認しました。

▼監査委員の選任について

(議案第四十九号)

監査委員に川田重一氏(中荒井)を選任することに同意しました。

▼固定資産評価員の選任について

(議案第五十号)

固定資産評価員に四方一人氏(要町)を選任することに同意しました。

意見書

▼安心・安全な地域社会づくりと農業の発展に向けた意見書

(市会案第二号)

福島第1原子力発電所事故の発生により、農産物を生産できる安全な環境と安心な食料を提供していける体制の確立が重要であると認識しました。また高齢化の進展や過疎化に伴い、後継者不足や耕作放棄地の増加などが生じ、農村地域のコミュニティは疲弊がみられ、必要なライフラインの維持までもが難しくなっています。このようなことから、農業者が安心かつ安全に営農活動を維持し、地域農業が将来にわたり持続的に発展していくために、

原子力発電所事故防止対策の強化や事故が発生した場合の農業関係者に対する適正な補償、農業者戸別所得補償制度の充実、農産物のブランド力強化、TPP交渉参加中止、鳥獣・病害虫による被害対策の強化、農村・地域コミュニティを守る対策の構築、農耕用にかかる軽油引取税の課税免除の継続などについて政府関係機関へ要請するものです。

請願書・陳情書の提出方法

どなたでも、市政についての要望などを、請願書や陳情書として市議会に提出することができます。請願書・陳情書ともに様式に特別の定めはありません。定例会初日の午後5時までに提出しますと、その定例会で審議することとなっています。

次の事項を記載して、持参の上、提出してください。

- ①請願・陳情の趣旨(具体的に)
- ②提出年月日、提出者の住所・氏名(押印必要)
- ③請願書の場合は、紹介議員の署名(1人でよい)

※詳しくは議会事務局にお問い合わせください。
(66-1111内線253)



のぞいてみよう大野市議会 (Vol.1)

市議会ってなんだろう？

市民が、自分たちの生活に身近な仕事や問題を自分たちの力で解決することを地方自治といいます。しかし、市民全員が集まって「くらしやすい」まちにするための話し合いを行うことはできません。

そこで、市民の中から代表の人を選んで話し合いをしてもらいます。この代表に選ばれた人たちを市議会議員といい、市民に代わって役割を果たすための市議会議員の集まりを市議会と呼びます。

市議会議員は、選挙で選ばれます。選挙は4年に1回行われます。大野市議会には現在、18人の議員がいます。

皆さまに市議会を知ってもらうために、次回号以降、市議会の役割や仕組みについて紹介したいと考えています。



会派構成

四月末に新たな会派として、双葉会が結成されました。

現在の会派の構成は次のとおりです。

- 双葉会 二人
- 公明党 一人
- 無党派 一人
- 新生おおの 八人
- 新風おおの 四人
- 日本共産党・大野市議団 二人

常任委員会審査

市長から提出された議案等を審査するため、各委員会が開催されました。委員会における主な質疑等の要旨は次のとおりです。



産経建設

Q 六間通りの整備方針において、なぜ四車線が二車線になってしまったのか。今年のような豪雪の場合、雪の置き場所に困ることになるが、除雪に関してどのように考えているのか。

A 六間通りの整備方針は行政が押し付けたものでなく、中心市街地の活性化も含めて関係者と検討してきた結果である。通行量は、二車線でもまかなえる路線となる。除雪は、流雪溝位置の移動や歩道除雪車での対応が必要となるが、経費はそれほど変わらないと思われる。

Q 奥越ふれあい公園多目的グラウンド照明設備工事について、計画はナイターソフトボール対応であるが、野球に対応できるようにすると経費はどれくらい増えるのか。有終グラウンドの二面を使って、現在、少年野球をしていることを考えるとナイター野球に対応できる照明とすべきではないのか。また、有終グラウンドの照明はどうするのか。

A 野球用にする場合には、投光機を増やすことになるが、二十万円の増額となる。一時的な市費の負担が多くなるため、また、あらためて投光機を付けることも可能であることから、とりあえずはソフトボール対応とした。また、有終グラウンドの照明は、小・中学校の希望を聞いて、有効活用したいと考えている。

Q 山ぎわ緩衝帯整備については業者へ委託しているが、市が直接雇用する場合と賃金に差はないのか。

A 四工区に分けて発注している。業者の方の給料に、残り四人は業者がハローワークを通じて雇用する形態であり、委託事業の中で市が賃金単価を指定している。

Q 越前おおの環境塾で、クニマスで有名な「さかなクン」を招いて講演会を開催予定とのことだが、その内容は。

A 九月二十五日、日曜日、午後一時三十分から文化会館大ホールにおいて、「さかなクン」を講師に、小学生向けの講演会を開催予定である。

民生環境

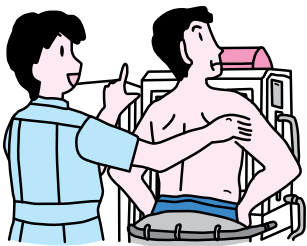
子どもたちの魚や海・自然に対する興味を引き出し、環境保全への理解が増すようなカリキュラムを考えている。

Q 市のホームページに新たに設けた子育て支援サイトの情報はどのようなものか。

A 本年三月二十五日に開設したもので、「赤ちゃんが生まれたら」「幼稚園に入るときは」など子どもの年齢やサービスの需要に併せて、シリアルに子育てに関する総合的な情報を集め、見たい情報へ分かりやすく入ることができるよう整備した。また併せて携帯電話、パソコンからも利用できる子育て情報のメールマガジン配信サービスも開始した。

Q 特定健康診査の受診率はどういう状況か。

A 平成二十一年度の特定健康診査受診率は、三十六・九割であった。受診率向上を目指し、本年度から新たに医療機関で受けられるよう個別健診を導入したところである。



総務文教

Q 今冬の公共施設の雪害に関する修繕料が補正予算で計上されているが、除雪を怠ったのか。

A 業者による雪下ろしの他に職員も軒先の雪下ろしを行うなど対策を講じたが、予想以上に雪が重かった。今後はより一層の予防策を講じた。

Q 県が暴力団排除条例を制定しているのに、なぜ大野市があえて条例を作らなければいけないのか。

A 福井県は県と県民等の責務を掲げて暴力団の排除に関する基本的施策等を規定している。大野市は市と市民等がそれぞれの立場で暴力団排除のための活動をするために何をすべきかを規定する必要があった。

Q 大野市防災行政無線（デジタル同報系）の戸別受信機を区の代表者宅に設置すると、区民に対して内容を言っ歩きなくてはいけないのか。また、交代した場合はどうするのか。

A 防災無線は基本的には屋外の放送受信機の設置箇所は区の方と相談したいが、移設の必要が出た場合には市が移設費用を負担したい。

委員長報告

各委員会における協議事項・意見・要望等の趣旨について、それぞれの委員長は報告は次のとおりです。

●産経建設常任委員会

▼九頭竜新緑まつりについて

市外来訪者から「片側通行となっている道路があり、渋滞していた」との声があったため、今までも管内の関係機関へ工事による片側通行の開放などについて要請しているとのことだが、市外からの来訪にもできる限りの配慮をお願いしたい。

▼六間通り整備計画案について

本計画案をもとに、今後、六間通りの整備が進められるとのことだが、沿線住民や関係団体の理解が十分でないと思われる。六間通り整備は、中心市街地活性化の観点からも重要であり、シンボルロードとしての役割を果たすためには、沿線住民の協力が不可欠だと考えるので、着工前には、再度、沿線関係者と十分な協議を行い、理解を得られるよう努められたい。

▼サン・スポーツランドの利用拡大について

建設から二十五年が経過し、破損や老朽化が進み、利用者が激減していることから、今回の補正予算で既存のテニスコートの人工芝化やコート二面の新設、またグラウンドの天然芝化などにより改修と機能の充実を図ることとされているが、改修後の利用計画が消極的に感じるので、市民の利用促進をはじめ、観光関連事業と組み合わせ、中京・関西方面の大学などへ積極的なPRを行うなど、施設利用率の向上に努められたい。

●民生環境常任委員会

▼疾病予防と健康増進について

現在、保健医療福祉サービス拠点施設内に開設予定である地域医療支援センターの在宅医療支援業務の基盤構築に努めているとの報告を受けた。

「かかりつけ医」の普及をは



じめとする在宅医療に関する意識の醸成など地域医療の推進は大切なことであると認識しているが、少子化・高齢化が急速に進む今日において、全ての市民が、元気に健康で楽しく安心して暮らすことができるよう、疾病予防につながる健康増進事業の充実にも努められたい。

▼生活保護について

全国的に生活保護受給者が増え続けており、制度の見直しに向け厚生労働省と地方自治体の協議が始まり、膨らみ続ける保護費の負担が地方財政を圧迫していることから、働く能力のある受給者への就労支援強化を中心に検討されると聞き及んでいく。

▼生活保護は憲法が保障する最低限の生活を営めるよう支給されるものだが、一生懸命働いて年金を受給されている方よりも生活保護費が高いという矛盾もあるようなので、実態調査を行い、真に保護を必要としている人には支給し、働ける人には自立を促すなど、適正に対処されたい。

▼公共下水道事業について

市街地において、下水道工事の供用開始区域が拡大し、平成十五年四月一日の供用開始から八年が経過したが、この間、高

齢化は進み、人口は年々減少し、財政状況はますます厳しくなるなど社会経済情勢は随分変わった。

これまで汚水流入量の増加に伴って処理施設の整備増強を進めてきたとのことだが、これからより一層、将来予測が難しくなることと思われるので、適正な投資に努めるとともに、下水道へのより一層の加入促進を行い、中期、長期、そして工事終了後の公共下水道事業財政計画を作成するよう求める。

●総務文教常任委員会

▼防災対策について

災害が発生した際の住民の避難場所については、全戸に配布されている「大野市防災マップ」や「大野市洪水ハザード・マップ」に示されているが、地域防災計画の見直しに併せて、洪水、地震、雪害などの災害に応じた避難所や避難経路について、再度、検討願いたい。

▼市民にやさしい公共施設について

本市では、新庁舎の建設、保健医療福祉サービス拠点施設整備をはじめ、公共施設の整備に取り組んでいるが、同じ種類の施設でありながら、所管する課

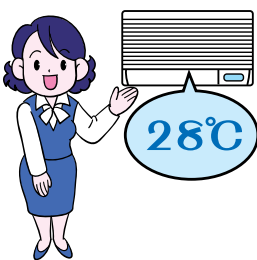
が複数にまたがっているため、市民が施設の問い合わせを行う際に、わかりにくい状況となっているため、窓口の整理について検討されたい。

また現在、整備中のものも含め、今後、公共施設の整備に当たっては、市民が集い、会議や打ち合わせをする場所に、無線によるネットワーク接続が可能な公衆無線LAN等の導入を積極的に図り、公共施設のより一層の情報化に取り組んでほしいか。

▼公共施設の節電対策について

古い公共施設においては、照明設備が会議室や事務室の机の配置とうまく合っていないため、効果的、効率的な節電ができていない状況が見受けられる。

今後のエネルギー政策の動向や地球温暖化防止の観点から、市が率先して節電に取り組み、市民の規範となるよう、ハード・ソフトの両面から、より一層の取り組みを求める。



特別委員長 報告



●中部縦貫自動車道・国道一五八号整備促進特別委員会

(進捗(しんちよく)報告)

- 中部縦貫自動車道(永平寺大野道路)
 - ▼平成二十八年の全線開通に向け要望継続中
 - ▼全長二六・四キロのうち、十一・一キロが供用済み
 - ▼福井・大野間全体で約九十七割の用地買収が完了
 - ▼小矢戸トンネルが七月下旬に貫通
- 中部縦貫自動車道(大野油坂道路)
 - ▼蔵生地区より順次、幅ぐいの現地立会いを実施
 - ▼延長四千九百九十八分の荒島第二トンネルを含む四本のトンネルの予備設計を発注
- 国道一五八号
 - ▼奈良瀬・境寺間は、今年度内の完成を目指し、工事を実施
 - ▼境寺から計石間の整備について県に要望継続中

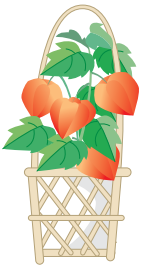
○国道一五七号大野バイパス(通称、東縦貫線)

- ▼平成二十四年度までに暫定二車線の供用開始を目標に工事を実施
- ▼中保から吉までの一・三キロ間の用地買収が七十四割、物件補償が八十四割完了

●庁舎等建設特別委員会

- ▼庁舎建設計画・設計のプロポーザルを、まずは庁舎建設だけについて実施することだが、工事が後戻りすることのないよう、周辺整備についても一体的に計画できないか検討されたい。
- ▼今後策定する基本計画、基本設計等については、広報おおのなどを利用して詳細な内容を公開し、多くの市民から意見や提案が得られるような方策を検討されたい。

- ▼本委員会は、プロポーザルにかかるプレゼンテーションヒアリングまでに視察研修を行い、各委員の意見を聴取して審査会に臨む。そのほか、課題の発生や状況の変化に応じて適宜委員会を開催することとする。



トピックス

中部縦貫自動車道・国道一五八号整備促進特別委員会は、去る五月二十七日、中部縦貫自動車道永平寺大野道路の工事現場を視察しました。

中津川で建設中の高架橋では、高さ約八分の橋脚の上に幅十一メートル程度の道を作る工事が進められており、委員は関係機関からスケジュールや構造などの説明を受けました。

これに先立ち、福井北ジャンクション付近や勝山市遅羽町大袋から小矢戸を結ぶ小矢戸トンネルの大袋側坑口を見学し、永平寺大野道路の工事の着実な進行を確認しました。

東日本大震災の復興において高規格幹線道路の役割があらためて見直されたところであり、北陸圏と中京・関東圏の東西軸をネットワーク化させる中部縦貫自動車道の全線開通のため、大野油坂道路大野東・和泉区間の工事着手と残る区間の事業化に向け、決意を新たにしました。

議 会 日 誌

- ◆5月
 - 18日～20日 総務文教常任委員会行政視察(広島県尾道市、岡山県真庭市・倉敷市)
 - 24日～26日 産経建設常任委員会行政視察(広島県竹原市・呉市)
 - 30日 会派代表者会議、議会運営委員会、議員全員協議会
 - 31日 北陸新幹線建設促進大会および北陸新幹線建設促進同盟会総会(東京都)
- ◆6月
 - 6日～22日 第376回定例市議会
 - 15日 全国市議会議長会定期総会(東京都)
 - 全国過疎地域自立促進連盟理事会(東京都)
- ◆7月
 - 4・5日 庁舎等建設特別委員会行政視察(三重県志摩市、愛知県犬山市)
 - 6日 中部縦貫・北陸関東広域道路建設促進同盟会定期総会(東京都)
 - 6日 岡山県総社市議会行政視察来訪
 - 8日 庁舎等建設特別委員会
 - 14日 全国森林環境税創設促進議員連盟役員会・定期総会(鳥取県三朝町)
 - 22日 庁舎等建設特別委員会
 - 25日 会派代表者会議、議会運営委員会、議員全員協議会

編集後記

東日本大震災から四カ月が経ちました。

本市の災害救援対応については、募金箱の設置により二千三百万円余りの義援金を送金、四回にわたり義援物資を搬送したほか、消防本部職員や保健師の派遣、被災者の受け入れと相談対応、また本定例会では人的支援経費として八百八十四万円を予算計上するなど、市をあげて取り組んでいます。関係者のご尽力に敬意を表します。

さて、本定例会では、大震災を受けて、本市の災害対策の在り方について、多くの議員が一般質問をし、議論されました。敦賀市から五十キロの範囲にある本市にとって、原発の安全性確保と大野市地域防災計画の見直しは、ますます必要になっています。

市議会としても、市民の皆さまの安全・安心の確保のため、引き続き、議論を進めていく所存です。(座長 浦井 智治)

議会だより編集委員会

- 委員 浦井 智治
石塚 淳子
兼 宮澤 秀樹
井 大

※ 次回は、十月二十五日の発行を予定しています。